

Forest通信 令和5年 8

No.414

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

巻頭
Photo

高尾山のいきものたち

アオバト (ハト科)



鮮やかな緑色の頭にクリっとした目が目立つ。頭から胸、背にかけて黄色がかった緑で、腹は白く、くちばしは水色をしている。葉の色と同じような体色なので、木の中で目立たない。主に広葉樹林などの森林に棲み、果実やドングリ、新芽などを食べている。鳴き声は、「アーオアオ」など。

繁殖期は6～9月で、木に巣をつくり、卵を2個産み、親鳥はヒナにタンパク質と脂肪分が含まれる「ピジョンミルク」を与えて育てる。珍しい行動として、夏から秋に塩分を含む水を飲むため、山地の鉱水や温泉水を飲み行くほか、森林から海岸に飛んで行き海水を飲むこともある。高尾のアオバトもどこかに飛んで行き、塩分を摂って暮らしているのだろう。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)

驚き桃の木 高尾の記

NO.13



「こんなにすごい人だった！」

皆さんは朝ドラ「らんまん」をご覧になっていますか？わが国の植物分類学の基礎を築き「日本の植物学の父」と呼ばれる牧野富太郎博士をモデルにしたドラマです。私の家の近くにある牧野記念庭園（晩年の30年余りを過ごした屋敷跡）や出身地である高知県、佐川町などは大フィーバーの様相です。45年以上前、私が学生時代に教官の勧めで購入した「学生版牧野植物図鑑」は長らく書棚の隅に追いやりその存在すら忘れてしまっていました。当時は、白黒の植物画が載ったこの図鑑にだいぶお世話になったにもかかわらず、著者については全く関心がありませんでした。が、今、ドラマをきっかけに博士の生涯や功績を知り、こんなにすごい人だったのだと驚くことばかりです！

すでにご存じだと思いますが、牧野博士は、生涯を通して1,500以上の種・品種を発見して学名をつけ、全国各地で収集した約40万点もの標本を蓄積しました。また、図鑑をはじめ多くの著書や精緻な植物図画を残し、さらに植物同好会での指導による教育普及活動にも力を入れました。これらの膨大な資料や長年にわたる活動の成果はわが国にとって貴重な宝物と言えると思います。

ここ高尾山にも植物採集や観察会に度々訪れ、博士が高尾山で採集・発見した植物は、レモンエゴマ、ホシザキイナモリソウ、ヤマミソソバ、ヤグルマカエデ、シロバナオオバジャノヒゲなど10種類以上あるそうです。高尾山のフィールドで仕事をされる者として、偉大な人物を少しばかり身近に感じる今日この頃です。
(枝)



ホシザキイナモリソウ (左) とレモンエゴマ (右)



体験林業 私立北豊島高等学校

7月12日(水)、東京都荒川区にある北豊島高等学校1・2年の女子生徒さん11名が体験林業に訪れました。

この学校では、学習テーマの一つとして「第一次産業を知る(体験する)」を掲げ、その中でも特に「林業」について学び体験したいということで当センターに受入れの依頼がありました。

当日は猛暑が予想される日でしたが、熱中症対策を万全にした上で、まずは現場へ。単層、複層の人工林を観ながら森林施業の方法、林業現場の課題や取り組みなどについて説明するとともに、手鋸を使った劣勢木の伐り捨て間伐、大鎌を使った草刈りを体験してもらいました。短い時間でしたが、これまでに全く経験したことのない作業に「木を伐るのは思った以上に大変」「危険な作業があることもわかった」などの声が聞かれました。

現場から戻って昼食後は、センターの展示室で森林・林業についての講義。産業としての林業の歴史、現状、課題、政策などを中心にお話ししました。最後に担当の先生がこのテーマへの想いを話された後、生徒さん一人一人から感想を述べてもらいました。とにかく初めての知見、体験で得るものがたくさんあったとの声が多く聞かれました。

今回の体験を機に、林業に関心を持って学習や体験を続けていただきたいと思います。(枝)



森の草木染展開催

高尾森林推進センターと協定を結んで活動している森林インストラクター東京会の森の草木染グループが作品展を開催します。

「近所で取れる草木を使い、キッチンにある道具で草木染をやってみませんか。こんな植物からこんな色が、自然の奥深さを体感しながら自分だけの作品を制作しましょう」と草木染の楽しさを多くの人に体験し、知ってもらうために活動しています。その中で作成した作品展です。

たくさんのご来場をお願いします。

期間

8月24日(木)~28日(月)

10:00~16:00

(昼休憩 12:00~13:00)

場所 展示室



公募イベント 森林カレッジ（夏）

当センターでは、森林・林業に関する学習や体験を通じて、森林・林業に対する理解を深めていただくことを目的に、森林カレッジを年4回（春、夏、秋、冬）開催しています。今回は第2回夏の開催として、暑さも一時的に和らいだ7月22日（土）に参加者14名のほか、ボランティアとしてフォレストサポートスタッフの皆さんからご支援をいただきながら、高尾山国有林内にある日影沢自然学習体験施設（炭焼き施設）において実施しました。

午前は、東京農業大学名誉教授の宮林茂幸先生をお迎えして、「森に学ぶ ～森づくり ことづくり ひとづくり～」をテーマに、森林・林業の現状や特徴、森林と私たちの生活、木材と暮らし、森林環境と人間社会などユーモアを交えながら多岐にわたりご講義をしていただきました。参加者からは、「森に親しむ効果を実感した」「森林の循環がキーワードでした」「国産材の現状について理解が深まった」「人の果たすべき役割を学べた」などの感想が寄せられ、特に森林環境による人への影響や将来に向けた森づくりのあり方などが印象に残ったようです。

午後は、植栽木を育てる作業を体験してもらうため、職員指導の下、下刈り作業と称して林道沿いに生い茂った草を鎌で刈り払う作業体験を行いました。残念ながら現地周辺には、近年植栽した箇所はないため、植栽木の周囲を刈り払うことはできませんが、参加者からは「作業の大切さやたいへんさが理解できた」「想像と実践は大きく違う」「下刈りのボランティアがあれば参加したい」「もう少しやりたかった」などの感想が寄せられ、作業のたいへんさを実感した一方、やりがいも感じられたようです。

その後は、第4回森林カレッジで予定している炭焼き体験（竹炭）に向けて、竹割り体験をしてもらいました。あらかじめ集めておいた竹を長さ80cm程度に切りそろえ、専用の器具により上部から一気に割ると、気持ちよく割れることから皆さん何度も夢中になって割っていました。これで森林カレッジ最終回の素材が整いました。今から冬の炭焼き体験が楽しみです。

（久）



宮林先生の講義



林道沿いの刈払い作業体験



竹割り体験

クラフト体験室から

クラフト体験室には3名（藤田、黒田、田中）のインタープリターが非常勤職員として勤務しています。

ここでは、輪切りにした台座に木の実や枝などを組み合わせて作る創作クラフトと高尾周辺で森林施業のために伐採された木や危険木として伐採された木の木片を利用した木ホルダーづくりが体験できます。

木のぬくもりや、手触りといったものを直接触れてもらいいつでも身近に木を感じてもらい将来木材を使ってもらう人を増やしていきたいと思って取り組んでいます。土日は家族連れの来所者が多く、みなさん満足しましたという感想をいただき、また来たいと言ってくれます。

また、平日は貸し切りで特別支援学校や特別支援学級の生徒さんや幼稚園、保育園などの子供たちのクラフト体験も行うこともあります。



展示室・クラフト体験室
10:00～12:00 13:00～16:00

クラフト体験の受付は
10:00～11:15 13:00～15:15

毎週火・水曜日及び教育機関等による貸切りの日は休館します。



編集後記

8月11日は「山の日」です。山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する、国民の祝日です。山の恩恵に感謝して、猛暑が予想される8月を乗り切りましょう。（皿）



夏エビネ

Forest通信 NO.414

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 042-663-6689

E-mail: ks_takao_postmaster@maff.go.jp

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

